

マツトビマダラシンムシ

6～7月にトドマツ，エゾマツなどトウヒ属，マツ属の若い枝や緑の松ぼっくりを食べるイモムシ（幼虫）。最大長約14mm。

頭は淡い茶色。体は赤茶色，下側は淡い。頭のすぐ後の背面が暗い茶色。尾端背面が暗い茶色。

【学名】 *Gravitarmata margarotana*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；ユーラシア大陸に広く分布。

【特徴】

マツ科針葉樹に寄生するシンクイムシ類（幼虫）の区別点

| 種和名 | 最大約 | 特徴 |
|-------------|------|--------------------------------------|
| ツマクロテンヒメハマキ | 12mm | 体はやや太く，黄白色で灰色や赤色味を帯びる。 |
| マツツマアカシンムシ | 9mm | 体が太く，頭が小さくみえる。赤茶色。マツ属だけに寄生。 |
| マツアカシンムシ | 15mm | 体が太く，頭が小さくみえる。赤茶色。マツ属だけに寄生。道南に分布。 |
| マツトビマダラシンムシ | 14mm | 体はやや太く，赤茶色で下側が淡い。 |
| マツズアカシンムシ | 12mm | 体はやや太く，淡い黄土色，背中が赤みがる。マツ属だけに寄生。道南に分布。 |
| マツシンマダラメイガ | 25mm | 体は細長く，灰色，細い縦縞が多数ある。 |

【生態】

宿主：トウヒ属やマツ属の当年生枝と球果，モミ属の球果。

年1世代。蛹越冬。成虫は5月上中旬に出現。卵は若い枝や球果に1個ずつ産み付けられる。幼虫は6月上旬～7月中旬に発生。枝や球果の内部に潜る。7月上中旬に落葉中で繭を作り蛹になる。

【文献】

1984. 鈴木重孝，駒井古実。北海道における針葉樹を摂食する小蛾類。北海道林業試験場報告，22：85-129。（分類，形態，生態）

マツトビマダラシムシ hamaki/matutobi/
kaisetv.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，2001/12/23.